

町村長会議の結果

【日 時】 平成20年5月19日(月)午後3時00分～午後4時30分

【場 所】 浦和東武ホテル3階飛鳥の間

【出席者】 29町村長(うち代理1)、知事、副知事以下県幹部

【概 要】

1 小沢会長あいさつ

2 上田知事あいさつ

3 意見交換

(1) 農業振興地域の整備に関する法律に基づく農用地設定について

(ときがわ町長)

- ・農用地設定については、地方分権の推進に伴い市町村の自治事務になった。しかし、農用地区域を減らさないとの方針のもと、農用地としての機能が十分発揮できない地域や土地についても農用地区域から除外ができず土地の有効活用が図れない。地域の活性化のためにも、市町村の自主的な判断を尊重して頂きたい。

(知 事)

- ・農地の保全をするとともに、農業の振興を図り、農業の生産性を向上していくのが基本的な考え方であるが、県としても、ケースバイケースではあるが、町の意向に沿えるようできるだけ国と協議していきたい。

(ときがわ町長)

- ・農業振興法については制定後、約40年も経過しており、農業地区域の設定は地域の実情に合った運用をさせて頂きたい。

(2) 地域医療の充実について

(杉戸町長)

- ・テレビや新聞で報道されているように、医師や看護師の不足などの理由から救急病院が減少し、救急医療体制の維持が困難になっている。特に小児科では初期救急患者が輪番病院に多数受診しているため、医師が長時間労働を強いられ疲弊している。また、小児科は採算性が低く医師の確保に必要な費用を賄うことが非常に難しい状況である。県におかれましては運営費の補助の増額と臨床研修医の県内誘導などに務めて頂きたい。

- ・同一の医療圏内に限らず、他の圏域や県を超えた広域連携が必要と思われる。長期的な展望も含めた対策を講じて頂きたい。
- ・住民の安心、安全を守るため、安心して医療サービス受けられるよう、救命救急センターなどの整備をお願いしたい。

(知事)

- ・知事裁量枠など活用して救命救急センター、地域医療支援病院などの整備を進めているが、なかなかニーズに追いついていかない状況がある。たとえば、初期救急患者の中には救急患者として受診する必要性の低い患者が含まれていることが考えられ、このため、昨年からはじめている電話相談事業(# 8 0 0 0)の利用促進を図るなど、初期救急患者の受診数を抑制していく必要もあると考える。今後とも、医師確保対策推進事業等を推進することで地域医療を支えていきたい。

(保健医療部長)

- ・小児科関係の診療報酬については知事を先頭に診療医療報酬の増額をするように国に要請してきた結果、今年度4月に診療報酬が上がったところである。
- ・茨城県との関係も含め、他の圏域と連携体制を話し合っていきたい。
- ・本県で8番目の救命救急センターを利根地域に整備する計画を進めている。

(3) 放課後子どもプランについて

(松伏町長)

- ・厚生労働省による『放課後児童クラブ』と文部科学省による『放課後子ども教室』があり、この2つの事業を一体化した『放課後子どもプラン』という事業がスタートしているが、2つの事業の役割、内容、体制が異なることに起因する多くの課題があり、実施に至らない自治体も多い。
- ・県は研究報告書をまとめたが、町村において放課後子どもプランの実施が進むよう、補助金の動向や事業に対する県の考え方を明確に示して頂きたい。

(知事)

- ・中央省庁が、地域の実態がどうなっているかをあまり考えないまま、2つの事業を一緒にしろと言っても難しい。このプラン自体が大変わかり難いものとなっていると思う。県としては、各地域の実態を把握し、その状況を各市町村に情報提供していきたい。

(福祉部長)

- ・2つの事業を一緒に進めている事例と課題を示し、各市町村の実情に応じて検討して頂きたいというのが研究報告書の内容である。
- ・事業の実施場所、利用料、おやつの問題などを斟酌しながら実情に合わせる形で、それぞれの市町村で御検討をして頂きたい。

(副教育長)

- ・目的、対象児童が別々の事業をどう上手に連携していくのかという課題がある。今後、推進会議を設け、各市町村の関係者にも入ってもらい、どのように運営すれば効率的な事業展開が出来るのかを話し合い、情報提供していきたい。

(4) 中山間地域対策について

(小鹿野町長)

- ・埼玉県において『彩の国のみどりの基金』が予算化され非常に期待している。農業経営の確立、県土の保全のため、予算面で特段の配慮をお願いしたい。

(知 事)

- ・『彩の国のみどりの基金』を通して、山林の保全を図っていきたい。
- ・山林を活用するのは地元の方々である。地域の特色を活かし、知恵を出し、付加価値の高いものを作って頂きたい。県としても最大限に協力する。